

# 環境経営レポート



( 2021年度 )

(2021年4月1日～2022年3月31日)

2022年6月30日

株式会社 丸興産業

# 株式会社 丸興産業

## 環境方針

### <基本理念>

株式会社丸興産業は、地域の循環社会の形成と環境保全の推進により地球環境規模の保全に取り組み、活動を行ってまいります。

### <方針>

株式会社丸興産業は、産業廃棄物処分業(中間処理・最終処分)、収集運搬業、一般貨物運送事業に係る事業活動、本社より発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。

(1) CO<sub>2</sub>の削減(電気・化石燃料等)

(2) 水の使用量の削減

(3) 一般廃棄物の削減

(4) グリーン購入の推進

(5) リサイクル化の推進

4. この環境に関する基本方針は、全従業員が周知徹底するとともに、社外にも公表します。

5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて、環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2015年 9月25日制定

株式会社丸興産業  
代表取締役 白井哲也

## □組織の概要及び対象範囲

### (1) 事業所名及び代表者名

株式会社 丸興産業                      法人設立年月日      平成元年5月1日  
代表取締役      臼井哲也                      資本金      2,000万円

### (2) 所在地

本社：北海道上磯郡知内町字上雷3番地2  
産業廃棄物処理場：北海道上磯郡知内町字中の川208-3  
たい肥化施設：北海道上磯郡知内町字中の川19-15

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者      臼井哲也  
TEL：      01392-5-6632      FAX:01392-5-6978

### (4) 事業内容（認証・登録の範囲）

HES

1. 一般・産業廃棄物の収集運搬、中間処理及び最終処分
2. 堆肥の製造・販売
3. 一般貨物自動車運送事業（資材、重機回送）

エコアクション21相互認証適用範囲

1. 産業廃棄物の収集運搬及び中間処理及・最終処分
2. 堆肥の製造

○事業に係る許可

許可の内容	取得年月日 有効期限	許可番号	事業の範囲
産業廃棄物収集運搬業	2018年10月26日	第00110009423号	燃え殻、汚泥、廃油、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、動物のふん尿、ばいじん。以上、石棉含有廃棄物であるもの、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む。積替保管あり。以下余白
	2025年10月13日		
産業廃棄物処分業	2019年 8月15日	第00140009423号	埋立（廃プラスチック類（ただし、自動車等破砕物（自動車（原動機付自動車を含む。）若しくは電気機械器具又はこれらのものの一部（自動車の窓ガラス、自動車のバンパー（プラスチック又は金属から成る部分に限る。）及び自動車のタイヤを除く。）の破砕に伴って生じたものをいう。以下同じ。）、廃プリント配線板（鉛を含むはんだが使用されているものに限る。以下同じ。）、廃容器包装（固形状又は液状の物の容器又は包装であって、不要物であるもの（有害物質又は有機性の物質が付着及び混入しているもの。）以下同じ。）及び水銀使用製品産業廃棄物であるものを除く。石棉含有産業廃棄物を含む。）、以下同ゴムくず、金属くず（自動車等破砕物、廃プリント配線板、鉛蓄電池の電極であって不要物であるもの、鉛製の管又は板であって不要物であるもの、廃容器包装及び水銀使用製品産業廃棄物であるものを除く。）、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（自動車等破砕物、廃ブラウン管（側面部）、廃石膏ボード、廃容器包装及び水銀使用製品産業廃棄物であるものを除く。石棉含有産業廃棄物を含む。）、がれき類（石棉含有産業廃棄物を含む。）、破砕（廃プラスチック類、木くず、動植物性残さ、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類）、破砕・熔融（廃プラスチック類）、破砕・選別（紙くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず）、焼却（紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ）、たい肥の製造（たい肥化（汚泥、動植物性残さ、動物のふん尿））。以下余白。
	2026年 8月11日		
一般貨物自動車運送事業	平成 6年 5月23日	北自貨第626号	営業区域（北海道運輸局函館陸運支局管内）
	なし		
一般廃棄物処分業（知内）	令和 4年 4月 1日	令和 3年度第7号	がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、小型木造船解体材、動物若しくは植物に係る固形状の不要物、スキ取り物、有機系一般廃棄物
	令和 6年 3月31日		
一般廃棄物収集運搬（知内）	令和 4年 4月 1日	令和 3年度第6号	がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、小型木造船解体材、動物若しくは植物に係る固形状の不要物、スキ取り物、有機系一般廃棄物
	令和 6年 3月31日		
一般廃棄物収集運搬（木古内）	令和 4年 4月 1日	R4-2	一般廃棄物
	令和 6年 3月31日		
一般廃棄物収集運搬（福島）	令和 4年 3月15日	第3号	一般廃棄物（がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、小型木造船解体材、動物若しくは植物に係る固形状の不要物、スキ取り物、有機系一般廃棄物）
	令和 6年 3月14日		
一般廃棄物収集運搬（松前）	令和 4年 3月21日	松町生号	がれき類、木くず、紙くず、繊維くず、小型木造船解体材、動物若しくは植物に係る固形状の不要物、スキ取り物、有機系一般廃棄物
	令和 6年 3月20日		

(5) 事業の規模

活動規模	単位	2019年度	2020年度	2021年度
産業廃棄物処理量	t	8,525.416	9,062.230	9,356.940
産業廃棄物収集運搬量	t	3,127.66	930.11	2,192.94
売上高	千円	103,411	128,892	128,475
従業員	人	11	11	11
事務所床面積（共用）	m <sup>2</sup>	207.99	207.99	207.99
産業廃棄物処理場敷地面積	m <sup>2</sup>	100,437	100,437	100,437
たい肥化施設敷地面積	m <sup>2</sup>	9,360	9,360	9,360

(6) 事業年度 2021年度

2021年4月1日～2022年3月31日までとし、実績値としてHES適用範囲と  
している

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年	2021年
		(基準年度)	
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	kg-CO <sub>2</sub> /年	566,632	560,000
購入電力	kwh/年	154,280	154,606
ガソリン	L/年	418	382
軽油	L/年	171,026	134,338
灯油	L/年	4,898	4,843
LPガス	kg/年	8	8
廃棄物排出量(一般廃棄物)	kg/年	12	12
廃棄物排出量(産業廃棄物)	t/年	45.42	12.98
総排水量	m <sup>3</sup> /年	76	52

(注) 電力の二酸化炭素排出係数は北海道電力(2013年度実績)の0.678t-CO<sub>2</sub>/kwhを使用している。

(注) 実績についてはHESの事業範囲を実施している。

## □環境目標及びその実績

		2020年度	2021年度		2022年度	2023年度
		(基準年度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	566,632	560,000kg-CO <sub>2</sub> を超えないようにする	470,351	558,000kg-CO <sub>2</sub> を超えないようにする	555,000kg-CO <sub>2</sub> を超えないようにする
電力使用量の削減	kwh	154,280	基準年度より1.0%削減	154,606	基準年度より1.5%削減	基準年度より2.0%削減
化石燃料の使用量削減 (ガソリン、軽油、灯油)	L	ガソリン	基準年度より0.5%削減	382	基準年度より1.5%削減	基準年度より2.0%削減
		軽油	基準年度より0.5%削減	134,338	基準年度より1.5%削減	基準年度より2%削減
		灯油	基準年度より0.5%削減	4,843	基準年度より1.5%削減	基準年度より2.0%削減
		4,898				
再資源化の推進 ※	%	90.0	90%以上を維持	94.5	90%以上を維持	90%以上を維持
一般廃棄物排出量の削減	kg/年	12.0	基準年度を上回らない	12	基準年度を上回らない	基準年度を上回らない
水の削減	%/年	76	基準年度より0.5%削減	52	基準年度より1.5%削減	基準年度より2.0%削減

※再資源化の推進で、基準年度より低い目標としているのは、受け入れ内容による変動を考慮したため

## □環境活動の取り組み計画と評価

2021年4月～2022年3月までの目標とその実績について、その評価を行った。

取り組み計画	達成状況		単位 年度比	評 価 (結果と今後の方向)
<b>二酸化炭素排出量の削減</b> ・省エネルギー	基準年度 目 標	2020年度 560,000kg-CO2 を超えない	kg-CO2 %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	470,351	kg-CO2	
<b>電力の削減</b> ・未使用時の機器の電源OFFの徹底 ・ unnecessary 電灯の消灯 ・機械設備のから運転防止	基準年度 目 標	2020年度 1.0	kwh %	未達成 目標の98.8%の結果ではあるが 産業廃棄物処理量が多かったことが要因 ではある。省電力を務めて、今後も 目標に取り組む。
	実 績	152,737 154,606	kwh kwh	
<b>化石燃料使用量の削減</b> (1) 軽油 ・急発進、急加速しない ・アイドリングストップの推進 ・発電機を使用しない時は電源OFF	基準年度 目 標	2020年度 1.0	L %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	169,316 134,338	L L	
(2) ガソリン： ・急発進、急加速しない ・アイドリングストップの推進 ・効率的なルートの走行	基準年度 目 標	2020年度 1.0	L %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	414 382	L L	
(3) 灯油： ・暖房は適正温度にする ・不在時は暖房を停止する	基準年度 目 標	2020年度 1.0	L %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	4,849 4,843	L L	
<b>リサイクルの向上</b> ・再資源化の推進 (チップ、路盤材、金属、プラスチックインゴット) ・選別の徹底	基準年度 年間目標	2020年度 90	% %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	維持する 94.5	%	
<b>廃棄物排出量の削減</b> ・紙の再利用	基準年度 年間目標	2020年度 12	kg kg	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	上回らない 12	kg	
<b>水使用量削減</b> ・節水	基準年度 年間目標	2020年度 1.0	m <sup>3</sup> %	達成 今後も目標に取り組む
	実 績	75 52	m <sup>3</sup> m <sup>3</sup>	

□来年3月までの取組

(2020年度実績を基準年度とする)

取り組み計画	目標	主な取組の内容
二酸化炭素排出量の削減	558,000kg-CO2を超えない	・省エネルギー
電力の削減	1.5%削減	・未使用時の機器の電源OFFの徹底 ・不必要な電灯の消灯
化石燃料の削減	軽油	□軽油
	1.5%削減	・急発進、急加速しない ・アイドリングストップの推進 ・機械設備のから運転防止
	ガソリン	□ガソリン
	1.5%削減	・急発進、急加速しない ・アイドリングストップの推進 ・効率的なルートの走行
	灯油	□灯油
	1.5%削減	・暖房は適正温度にする ・不在時は暖房を停止する
リサイクル率の向上	90%以上	・選別の徹底 ・資源化の推進
一般廃棄物排出量の削減	基準年度を維持する	・紙の再利用 ・空き缶、ペットボトルの再資源化
水使用量の削減	1.5%削減	・節水

## □環境関連法規等順守状況の確認及び評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	順守評価
廃棄物処理法	順守
大気汚染防止法	順守
ダイオキシン特措法	順守
道路交通法	順守
消防法	順守
北海道循環型社会推進条例	順守
北海道公害防止条例	順守
自動車リサイクル法	該当なし
家電リサイクル法	該当なし

環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

## □環境関連法規等順守状況の違反、訴訟等の有無

違反等の指摘及び、訴訟等は過去3年間ありません。

## □代表者による全体評価と見直しの結果

環境マネジメントシステムが有効に機能しており環境目標も全て達成されている。

今後もこの活動を維持していく。

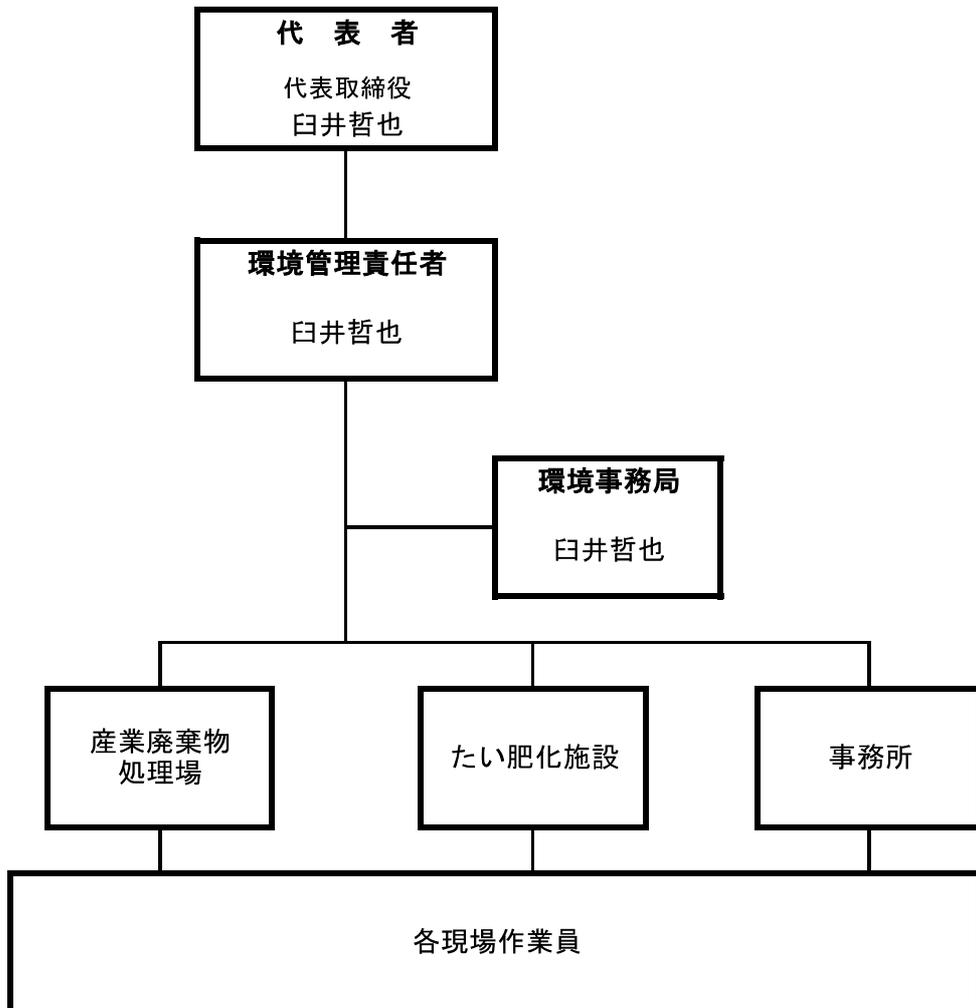
2020年度の実績を基準年度とし、環境目標を設定すること。

## □優良性評価制度における情報（産廃関係の情報）

### 1. 会社情報

名称	株式会社 丸興産業
所在地	北海道上磯郡知内町字上雷3番地2
創立年月日	平成元年5月1日
資本金	2,000万円
代表者	代表取締役 臼井哲也
役員等	取締役 臼井真由美 取締役 臼井幸子 監査役 竹林 勲
従業員数	11

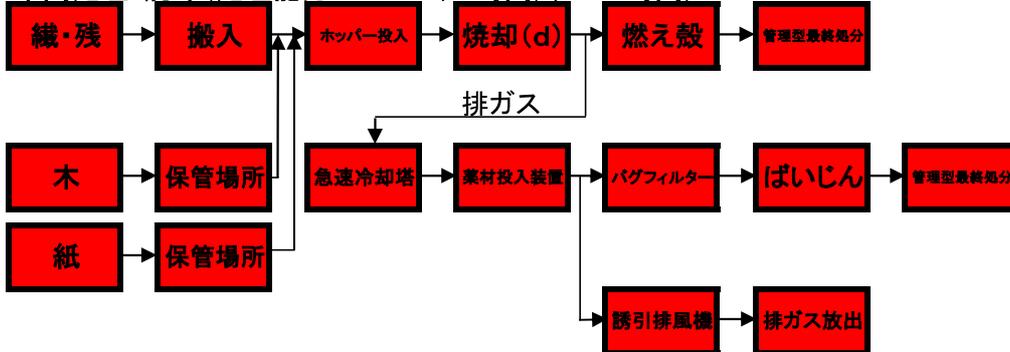
### 2. 組織図



4. 作業工程図

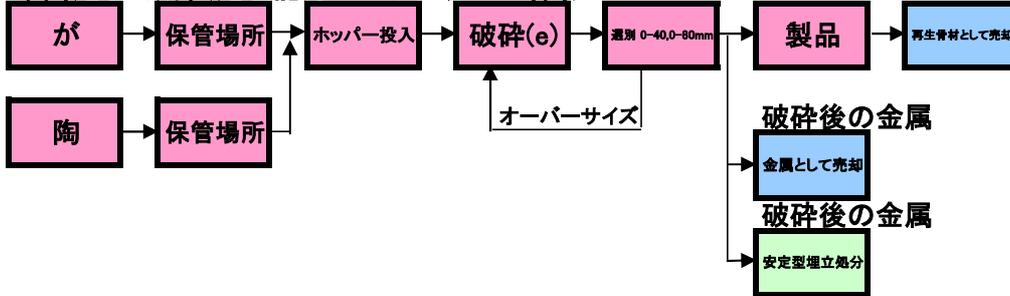
## 最終処分までの処理工程(産業廃棄物)

中間処理: 焼却(処理能力: 7.2t/日(12時間)、0.6t/時間)



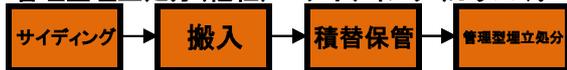
\* 繊維くず・動植物性残さは即日に処理を行い、木くず・紙くずについては保管場所で堆積行い、保管期限内に処理をします。  
 なお、焼却後の燃え殻・ばいじんは管理型最終処分とする。

中間処理: 破碎(処理能力: 480t/日、60t/時間)



\* がれき類・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは保管場所で堆積を行い、保管期限内に処理を行う。  
 資源化されたがれき類・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは有価とし、破碎後に発生した金属については有価もしくは安定型処分で埋立を行う。

管理型埋立処分(他社)～サイディング(ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず+木くず+紙くず)の混合物



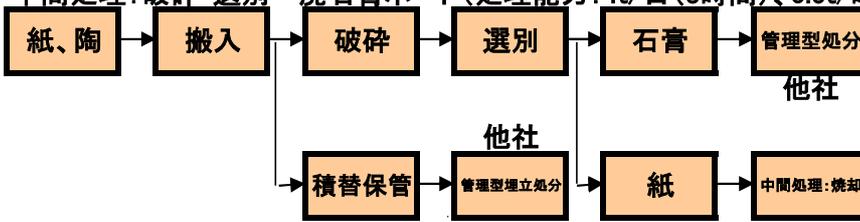
\* サイディング(ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず+木くず+紙くず)の混合物は、積替保管場所で保管し、管理型処分場で処理を行う。

管理型埋立処分(他社)～アスファルトルーフィング



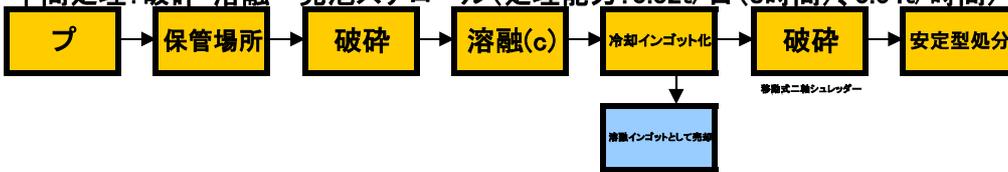
\* アスファルトルーフィングは、積替保管場所で保管し、管理型処分場で処理を行う。

中間処理: 破碎・選別～廃石膏ボード(処理能力: 4t/日(8時間)、0.5t/時間)



\* 廃石膏ボードは即日に破碎・選別した場合、石膏は管理型処分、紙は弊社で焼却を行う。  
また、積替保管による場合は、保管期限内に管理型処分場へ搬入します。

中間処理: 破碎・溶融～発泡スチロール(処理能力: 0.32t/日(8時間)、0.04t/時間)



\* 発泡スチロールは、一時保管場所に移してから破碎・溶融し、インゴット化する。  
なお、インゴットは有価にし、有価にできないものは、破碎後安定型埋立処分をする。

小径のもの

中間処理: 破碎(処理能力: 168t/日(8時間)、21t/時間)

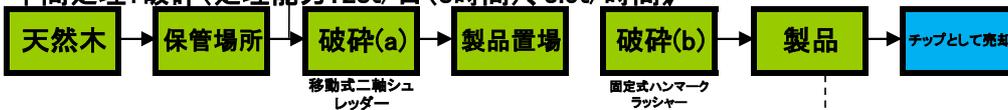


\* 建設廃材系の木くずは、一時保管場所に移し、破碎する。製品は、有価にする。  
なお、小径のものについては直接固定式ハンマークラッシャーにて破碎を行う。

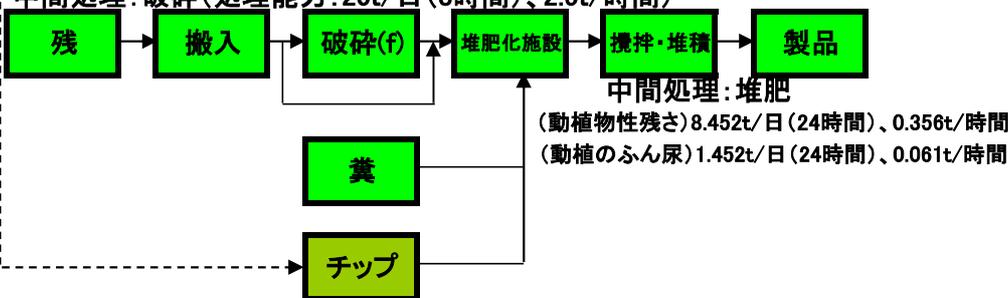
\* 天然木の木くずは、一時保管場所に移し、破碎する。製品は、有価と堆肥のチップ材料にする。  
なお、小径のものについては直接固定式ハンマークラッシャーにて破碎を行う。

小径のもの

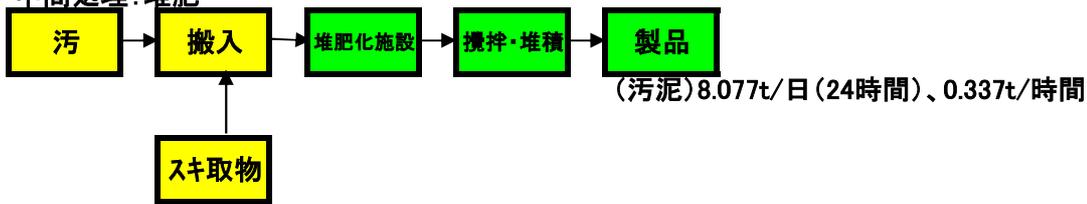
中間処理: 破碎(処理能力: 28t/日(8時間)、3.5t/時間)



中間処理: 破碎(処理能力: 20t/日(8時間)、2.5t/時間)



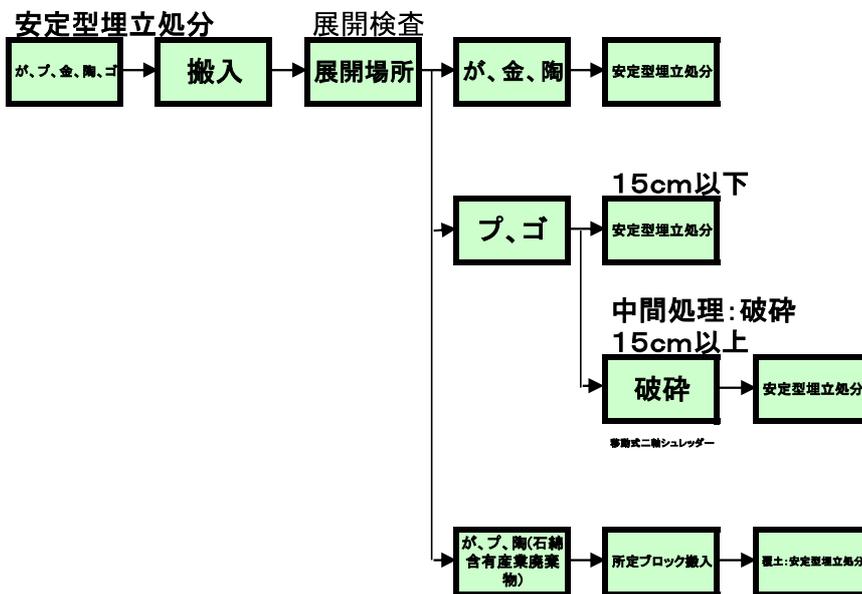
中間処理: 堆肥



\* 汚泥、動植物性残さ、動物のふん尿を用いて、攪拌、移動作業を行う。  
 なお、日曜日などの休日は夜間については高温発酵処理を施設内で行うため、臭気が建物外部に漏れないように屋内での開口部についてはシャッターでの閉鎖をして臭気を防ぐようにします。

使用可能ピット10ピットの内訳は残さ(2ピット)、汚泥(5ピット)、残さ・汚泥兼用(2ピット) 実験用(1ピット)として運用する。

安定型埋立処分



\* がれき類・廃プラスチック類・金属くず類・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・ゴムくずは、一時展開場所で展開検査を行い、指定された場所に持っていく。  
 がれき類・金属くず類・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずは埋立処分し  
 廃プラスチック類・ゴムくずは15cm以下のものは埋立処分し、15cm以上のものは破碎し、埋立処分する。  
 石綿含有産業廃棄物は、所定の場所に搬入して埋立処分する。

保管場所名	設置場所	面積	保管上限	保管品目
保管施設1	中の川208-3	300m <sup>2</sup>	335m <sup>3</sup>	木(焼却)
保管施設2	中の川208-3	480.5m <sup>2</sup>	796m <sup>3</sup>	が【コンクリート】(破碎)
保管施設3	中の川208-3	671.7m <sup>2</sup>	1,573m <sup>3</sup>	が【アスファルト】(破碎)
保管施設4	中の川208-3	8.4m <sup>2</sup>	5.2m <sup>3</sup>	陶(破碎)
保管施設5	中の川208-3	1,216m <sup>2</sup>	3,821m <sup>3</sup>	木(破碎)
保管施設6	中の川208-1	18m <sup>2</sup>	72m <sup>3</sup>	プ(溶融)
保管施設7	中の川208-3	63m <sup>2</sup>	56m <sup>3</sup>	紙(焼却)
保管施設8	中の川208-3	1,800m <sup>2</sup>	4,769m <sup>3</sup>	木(破碎)

施設の名称	設置場所	処理能力	廃棄物の種類
焼却施設	中の川208-3	7.2t/日(12時間)	木くず・紙くず・繊維くず・動植物性残さ
破碎施設	中の川208-1、3	480t/日(8時間)	がれき類・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
破碎施設	中の川208-1、3	プ 107.2t/日(8時間)	廃プラスチック類・木くず
		木 168t/日(8時間)	
破碎施設	中の川208-1	28t/日(8時間)	木くず
破碎・溶融施設	中の川208-1	0.32t/日(8時間)	発泡スチロール
破碎・選別施設	中の川208-1	4t/日(8時間)	廃石膏ボード
破碎施設	中の川208-3	20t/日(8時間)	動植物性残さ
たい肥化施設	中の川19-15	汚泥 8.077t/日(24時間)	汚泥・動植物性残さ・動物のふん尿
		残さ 8.542t/日(24時間)	
		動物の糞尿 1.452t/日(24時間)	
安定型埋立	中の川208-3	24,237m <sup>2</sup>	がれき類・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・廃プラスチック類・金属くず類・ゴムくず
		238,175m <sup>3</sup>	
		2020年度末埋立残余容量 107,675m <sup>3</sup> (内覆土材17,515m <sup>3</sup> )	

施設の種類	設置場所	面積	保管上限	積替保管品目
保管場所1(屋外)	中の川208-3	37.6m <sup>2</sup>	52m <sup>3</sup>	アスファルトルーフィング
保管場所2(屋内)	中の川208-1	78.7m <sup>2</sup>	144.4m <sup>3</sup>	紙くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボード)
保管場所3(屋外)	中の川208-3	18.4m <sup>2</sup>	26m <sup>3</sup>	廃プラスチック類、紙くず(クロス)
保管場所4(屋外)	中の川208-3	36.3m <sup>2</sup>	29.7m <sup>3</sup>	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、木くず、紙くず(サイディング)
保管場所5(屋外)	中の川208-3	43m <sup>2</sup>	40m <sup>3</sup>	廃プラスチック類、金属くず

5. 施設及び処理の状況

用途	車種・その他	台数
収集運搬車	10t セルフ	1
	10t ダンプ	3
	4t ユニック	1
	4t ダンプ	1
作業車	小割、再生材積込	3
焼却炉		1
破碎機		3
たい肥化施設		1

6. 処理の実績 産業廃棄物 エコアクション21相互認証適用範囲

処理内容	廃棄物の種類	処分方法	2021年度 処理量(t)	
(i) 産業廃棄物収集運搬	燃え殻		22.92	
	ばいじん		0.00	
	廃プラスチック類		91.86	
	紙くず		6.84	
	木くず		290.47	
	繊維くず		2.42	
	動植物性残さ		95.95	
	金属くず類		41.29	
	ガラス陶磁器くず		73.57	
	がれき類		1,252.92	
	汚泥		135.43	
	安定型混合物		18.54	
	管理型混合物		160.73	
収集運搬量合計			2,192.94	
(ii) 産業廃棄物中間処理	木くず	焼却	82.29	
	動植物性残さ	焼却	0.62	
	紙くず	焼却	14.49	
	繊維くず	焼却	16.83	
	うち再資源化等	木くず	破碎	1,158.41
		がれき類	破碎	4,737.98
		ガ陶くず	破碎	0.00
		動植物性残さ	堆肥化	141.00
		汚泥	堆肥化	135.43
		発泡スチロール	破碎・溶融	2.08
再資源化等量合計			6,174.90	
中間処理合計			6,289.13	
(iii) 最終処分	廃プラスチック類	安定型埋立	1,534.65	
	ガラス陶磁器くず	安定型埋立	1,246.38	
	がれき類	安定型埋立	122.55	
	金属くず類	安定型埋立	91.06	
	混合物	安定型埋立	73.17	
最終処分量合計			3,067.81	

処理内容		廃棄物の種類		処分方法	2021年度 処理量 (t)
(iv) 中間処理後の産業廃棄物	最終処分	燃え殻		管理型埋立	11.42
	再資源化等	木くず		燃料	245.21
				外壁材	611.60
				堆肥の製造	301.60
		がれき類		路盤材	4,737.98
		がれき類(内有筋コンクリート破砕分)		有価	372.80
発泡スチロール		インゴット	2.08		
中間処理後処分量合計					6,282.69
再資源化 (堆肥の製造)		残さ	141.00 t	717.13 t	717.13
		有価物(残さ)	124.53 t		
		有価物(ふん尿)	150 t		
		チップ	301.6 t		
		汚泥	135.43 t	454.43 t	454.43
		すき取り物	319.00 t		

一般廃棄物 HES

処理内容	廃棄物の種類	処分方法	2021年度 処理量(t)	
(i)一般廃棄物収集運搬	紙くず		26.60	
	木くず		0.20	
	繊維くず		0.40	
	動植物性残さ		24.55	
	スキ取り物(草+土)		281.84	
収集運搬量合計			333.59	
(ii)一般廃棄物中間処理	木くず	焼却	0.00	
	動植物性残さ	焼却	0.06	
	紙くず	焼却	26.60	
	繊維くず	焼却	0.57	
	うち再資源化等	木くず	破碎	89.76
		がれき類	破碎	18.79
		ガ陶くず	破碎	0.00
		動植物性残さ	堆肥化	24.47
		スキ取り物(草+土)	堆肥化	319.00
			選別	1,025.91
	再資源化等量合計			1,477.93
中間処理後処分量合計			1,505.16	
(iii)最終処分				
最終処分量合計			0.000	
(iv)中間処理後の産業廃棄物	最終処分	燃え殻	管理型埋立	2.72
	再資源化等	スキ取り物(草+土)	草	51.30
			客土	974.61
		木くず	燃料	89.76
		がれき類	路盤材	18.62
	がれき類(内有筋コンクリート破碎分)	有価	0.17	
中間処理後処分量合計			1,137.18	

7. 廃棄物処理料金  
見積書による。